

文化・芸術

「なつ」

1969年ころ、紙本彩色
53・0センチ×45・5センチ

山口華楊（1899～1984年）

梅雨明けとともに、連日の猛暑。これほどの天候の変調になると、植物の生育にも少なからず影響してくることでしょう。先日夕刻、植えたばかりの花の苗に、「暑かったからね」と声をかけながら水をやっている方を見かけました。暑さと水不足で農作物も大丈夫でしょうか。

さて、今回は夏にふさわしい小品を紹介いたします。作者の山口華楊は、京都生まれの日本画家。戦後、日展を中心に活躍し、1981年には文化勲章を受章。堂々たる姿の黒ヒヨウやトラから愛らしい猫や犬までをモチーフにした動物画を得意としました。動物の動きや静止した姿を写実的にとらえながら、毛タンな感覚を加味した構成で生き生きと表現しました。

そうした画家にしては珍しい植物画です。しかし大きく実ったナスに、花に誘われる黄色のチョウを加えることで、動物画にも似た一瞬のささやかな動きを画面に与えています。

（田中）



《名画の扉》

大川美術館
日本画コレクションから